

## 叙述を基に、自分の考えを持つ児童の育成

—良好な人間関係づくりを土台とした「読むこと」の単元構想を通して—

石巻市中里小学校 門脇 和歌子

### 1 はじめに

令和2年度より小学校学習指導要領（平成29年告示）が全面実施された。国語科で育成を目指す資質・能力の三つの柱の1つである〔思考力、判断力、表現力等〕の3領域全てに「考えの形成」に関する指導事項が位置付けられ、考えを持つための学習過程がより重視されるようになった。

本校は、文章を読んで自分の考えを持つことができない児童が多いという現状にある。昨年度の標準学力調査では、国語科「読むこと」の領域における場面の様子や登場人物の心情に関する問題の正答率が、他の問題と比較して低いという結果であった。文章の内容を正確に理解させるとともに、自分の考えを持つ力の育成を図ることが課題である。

自分の考えを持つ力を育てるためには、1つの単元を指導する展開において、段階を明確にした上で学習過程を計画し、さらに、指導事項を繰り返したり応用したりして、螺旋的・反復的に指導することが必要であると考え。加えて、児童が自らの考えと向き合ったり、児童同士が関わり合い、様々な考えを共有したりする対話的な学びを単元の中に取り入れることが、自分の考えを持つ力の育成の一助になると考える。

以上のことから、本研究では「読むこと」の単元構想\*<sup>1</sup>を通して叙述を基に自分の考えを持つ児童の育成を目指すこととした。

### 2 研究の目的と方法

#### (1) 研究の目的

本研究の目的は、国語科「読むこと」の文学的な文章教材において、「見付ける」「つなぐ」「深める」という3つの段階を設けた単元を構想し、授業実践を通して、文章の叙述を基に自分の考えを持つ児童を育成することである。今年度は、登場人物の行動や気持ちを捉えることを学び始める第3学年の児童を対象に授業実践を行い、有効性を探る。次年度、他学年での実施を目指していく。

#### (2) 研究の方法

##### ① 手立て1 段階を設けた単元構想

「見付ける」の段階では、文章から登場人物の気持ちを表す叙述や表現を見付けさせる。登場人物の行動や会話、様子など、複数の叙述や様々な表現から登場人物の気持ちを捉えることができるというこ

とを実感させていく。言葉を見付けさせる際には、教科書や文章を拡大した掲示物にサイドラインを引かせ、気持ちを表す言葉が複数あるということを意識付けていく。見付けた言葉は表にまとめ、積み重ねることで、語彙を増やすことにつながる。

「つなぐ」の段階では、場面や出来事を結び付けて考えることを通して、登場人物の気持ちの変化や性格について、複数の叙述を基に捉えさせる。登場人物の気持ちが最も変化したと考える場面や出来事を選んだり、物語の始めと終わりを比較して変化の有無を考えさせたりする。

「深める」の段階では、前時までの学習を踏まえた物語全体の解釈に関わる学習課題を設定する。「なぜそう思ったのか」「どの言葉から考えたのか」など、理由や根拠を問う発問を行ったり、共通点や相違点を可視化したりすることにより、児童の多様な考えを引き出していく。複数の考えを比較検討した後、改めて自分の考えをまとめさせることで、児童の読みの深まりを目指していく。その際、考えの根拠となる叙述に着目させることで根拠の明確化を図る。

全ての段階で「文章のどの言葉から考えたのか」ということを意識させるため、児童の考えの根拠となった叙述を「考えのもと」と名付け、授業中のツールとして提示する。さらに「見付ける」「つなぐ」「深める」の構想において、各単元でそれぞれ重点を定めて螺旋的・反復的な学習過程とし、単元の学習内容を積み重ねながら年間を通して指導する。

##### ② 手立て2 M L Aの実践の取り入れ

児童が安心して自分の考えを話すことができる、良好な人間関係を学習の土台とすることで、児童の様々な考えを引き出すことができると考える。そのために本市が推進しているM L A（「SEL」「協同学習」「ピア・サポート」「P B I S」）からなる、集団づくりと授業改善を目指す取組\*<sup>2</sup>）の他教科での実践を生かし、これを単元構想に取り入れる。児童が自分の考えを持つことに至るまでの過程でM L Aを意図的に取り入れ、各児童の考えを形成していく上での一助とする。本時の展開の中で、児童が無理なく実践できるように手を加え、考えを共有する活動を中心に行っていく。

##### (3) 検証の方法

第3学年の児童を対象とした国語科の学習での児童の記述における、考えの根拠となる叙述の明確化、及び、実態調査（令和2年6月、11月実施）の比較

から分析を行う。

MLAに関連する取組については、各単元における振り返りの変容及び、実態調査の比較から分析を行う。

### 3 実践授業

#### (1) 単元名 「あらすじカード」を作ろう

「見付ける」の段階に重点を置き「いつ、どこで誰が、どうした」という物語の出来事と、「登場人物の気持ち」を表す言葉を見付け、「あらすじカード」にまとめさせた。授業を重ねるごとに叙述から登場人物の気持ちを考えることができるようになったが、個人差があった。

#### (2) 単元名 人物につたえたいことをまとめよう

「つなぐ」の段階に重点を置き、中心人物の気持ちの変化を捉えさせた。全員が中心人物の気持ちが最も動いた出来事を選ぶことができたが、根拠となる叙述を書くことができた児童は約60%だった。

#### (3) 単元名 想ぞうしたことをつたえ合おう

「深める」の段階に重点を置き、中心人物の性格を捉えさせた。進んで叙述から登場人物の気持ちを捉えようとする様子が見られ、物語全体を通した中心人物の性格について、約97%の児童が根拠となる叙述を書くことができた。また、約40%の児童が複数の叙述から中心人物の性格を考えることができた。

### 4 検証と考察

#### (1) 児童の記述による検証

##### ① 国語科の学習における児童の記述の変容

『あらすじカード』を作ろうから「想ぞうしたことをつたえ合おう」までの児童の記述を比較すると、登場人物の気持ちを表す言葉を的確に見付けることができた児童が、約6%から94%に増えた。また、約97%の児童が文章から根拠となる叙述を挙げ、自分の考えを書くことができるようになった。

##### ② 実態調査における変容

1回目と2回目の実態調査の結果を比較すると、文章から登場人物の心情を表す言葉を見付けること、感想や考えの理由を書くことの両方とも記すことができた児童が増えた。

#### (2) MLAの実践の取り入れによる検証

##### ① 国語科の学習における振り返りの記述の変容

「学習中のMLAの取組が自分の考えを持つことに役に立ったか」という質問について、「とても役に立った」と答えた児童が約19%から72%に増えた。

##### ② 実態調査における変容

1回目と2回目の実態調査の結果を比較すると、「自分の考えを話すことは得意だ」「間違いを気にしないで自分の考えを話している」と答えた児童が

ともに増えた。

#### (3) 考察

学習を進めるごとに、叙述に着目して登場人物の気持ちや性格を考えることができるようになった。また、考えを共有した後、改めて自分の考えをまとめさせたことで、始めの考えから変化したり複数の叙述から考えることができたりと、読みが深まった様子も見られた。一方、考えの根拠を明らかにすることが難しい児童もおり、具体的な支援が不十分だったという課題もある。

### 5 研究の成果と課題

#### (1) 研究の成果

段階を設けた単元構想を行ったことで、叙述を基に考えを書いたり話したりする様子が多く見られ、考えを持つことにつながっていった。「文章中の言葉から考える」ということを意識させ、考えの根拠となる叙述に着目させたこと、年間を通して螺旋的・反復的な授業づくりを行ったことが有効であったためと考える。また、「見付ける」「つなぐ」「深める」の3つの段階を示して学習を進めたことで、見通しを持ちながら進んで文章と向き合おうとする姿勢が見られた。

MLAの実践を単元構想に取り入れたことで、相づちを打ちながら聞いたり、悩んでいる友達に声を掛けたりする様子がかがえた。その結果、進んで自分の考えを話そうとする児童が増え、考えの手掛かりを見付けたり、自分とは違う考えを認め、読みが深まったりする様子が見て取れた。話しやすい学級の雰囲気が授業の基盤となることができたためと考える。

#### (2) 今後の課題

気持ちを表す言葉を見付けることができない児童に対し、実態に合わせた具体的な支援の手立てを検討する必要がある。また、第3学年の説明的な文章教材や他学年の「読むこと」の領域においても、内容を更に精選した単元構想を作成し、学校全体へ広げていきたい。MLAの実践の取り入れについては、今後も継続して行っていく。

#### 【注】

- \*1 単元を1つのまとまりとし、本研究では「読むこと」の領域における指導と評価の計画とする。
- \*2 MLA（マルチレベルアプローチ）とは、社会性と情動の学習（SEL）、協同学習、児童が共に支え合う活動（ピア・サポート）、ポジティブな行動介入と支援（PBIS）の4本柱からなる包括的生徒指導。

#### 【引用・参考文献】

- 1) 栗原慎二：マルチレベルアプローチMLAだれもが行きたくなる学校づくり、ほんの森出版、2017
- 2) 宮城県総合教育センター：平成28年度授業改善・学力向上研究グループ「国語科、算数・数学科における児童生徒の学力向上を目指す授業改善」、2016
- 3) 宇治市研究主事兼指導主事 針尾有章子 研究主事兼指導主事 伴昌也：国語科における「読むこと」の単元構想モデルの開発、2017